

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



重症心身障害児（者）病棟開棟 50 周年記念作品『未来につなげる笑顔の花』

病棟開設 50 周年を迎え

今年、当院では重症心身障害児（者）病棟開設50周年を迎え、多くの来賓の方を始め入所者さんやそのご家族のご参加も頂きながら、盛大な記念行事を開催する事が出来ました。

この50年の間には多くの方が入所されて、ご自分の人生の足跡を刻んでこれられました。

入所生活に於いては、医療的対応による疾病の治療や健康維持だけではなく、安定した生活そのものを構築していくという要素が大きなウェイトを占める為、スタッフにとっても病状把握のみならずより細かい部分への気配りが欠かせないものとなっています。また、長期に渡り入所されている方が多い為、必然的に強い親近感を持ちながら接していく事にもなりますが、その際、入所者さんとの適切な距離感を如何に保っていくかという事が、実は現在大きな課題となっています。

親しみの気持ちを持って暖かい雰囲気環境を形成しながら、かつ、しっかりと相手の人格を尊重した冷静な対応をしていける病棟作りを今後も地道に続けていく事が、60周年へ向けてとても大事な事だと考えます。



診療部長
川満 徹

さまざまな気管切開カニューレ

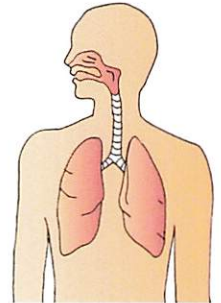
主任臨床工学技士 藤 峯 孝次

当院では気管切開カニューレについて主治医と共に入院患者さんに合ったカニューレを評価し、必要に応じて変更しています。気管切開をされている患者さんのCT画像を確認すると、カニューレのカフや先端の部分が気管-腕頭動脈に近接していることがあります。そのような画像を見た際には主治医へ報告し、共にCT画像を見ながら、カニューレと腕頭動脈の距離を出来る限り保てるカニューレの選択を行います。変更後はCTを撮像し、主治医と共に離れたことを確認します。離れたことを確認すると一安心です。

また、気管切開下で人工呼吸器を装着した患者さん、特に小さいお子さんの場合は成長に合わせて変更していく必

要があります。小児用気管カニューレは種類も豊富なため選択に悩みます。主治医と話し合った結果選んだカニューレが気管支分岐部の手前にあることが確認できれば、ほっとします。

他にもスピーチカニューレを用いて会話を楽しむ患者さんは、気管への唾液の垂れ込みがなく発声機能が十分であると判断された場合に使用します。最近では患者さんのところに向き、私も会話を楽しんでいます。



認定看護師による誤嚥性肺炎予防への取り組み

3階病棟 副看護師長 中西 美帆

当院は、『多くの人の笑顔のために』を基本方針として、重症心身障害児(者)医療、神経難病医療、長寿医療を地域のみなさまへ提供しております。また、これらの病気の治療と療養のため、入院される患者さんの高齢化が進んでいます。

高齢の入院患者さんは、嚥下機能の低下による誤嚥性肺炎を発症しやすく、その予防のためのケアが看護師の重要な役割です。具体的には食事介助や食事形態の検討や口腔ケア、ポジショニング(食事姿勢)、肺理学療法、排痰補助装置(カフアシストやスマートベ



スト)を用いて呼吸ケアを実践しています。

当院には、感染管理認定看護師や緩和ケア認定看護師、在宅ケア特定認定看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師が各分野で専門性を発揮して活動しています。認定看護師で構成されるリソースナース会において、誤嚥性肺炎予防として、口腔ケアの充実に着目して取り組んでいます。口腔ケアは誤嚥性肺炎予防の他にも口腔機能の維持・向上、生活の質の向上などの目的や効果があります。

今後も、専門的な技術や知識を駆使して、患者さんの生活の質を高められるよう質の高いケアを提供していきたいです。

当院のコミュニケーション支援機器について

主任作業療法士 洲崎 敏広

以前、手を動かしたり声を出したりすることが難しい患者さんに、視線入力や特殊スイッチを用いた意思伝達装置を導入していることを紹介しました。今回はそれらの機器を実際に活用していただくための工夫や取り組みをご紹介します。

患者さんが装置を使用する際は、装置やスイッチの選定、セッティング、操作練習などを一人一人の身体状況や生活環境に合わせてすすめていきます。例えば「どの機器が使いやすいか」「どのスイッチが押しやすいか」など、身体の機能や反応を観察しながら最適な組み合わせを見つけて

いきます。

また、1日の生活の中での使いやすさを評価するため、リハビリスタッフだけでなく、医師や看護師など多職種が連携し、少しでも快適に使用できるよう工夫を重ねています。

今後も患者さん一人一人のより良いコミュニケーション支援を続けて参ります。





地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

社会福祉法人緑進会 軽費老人ホーム ケアハウス ニコニコ村

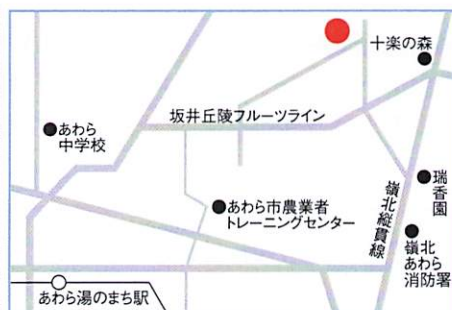
ケアハウスニコニコ村は平成12年に開設した軽費老人ホームです。当時は介護保険制度が始まり、在宅介護サービスが充実し始めたころでした。ケアハウスは介護施設とは違い、日常的な介護を受けることができない為、在宅介護サービスが制度として始まったことは、ケアハウス入居者にとって暮らしやすくなった時期でもありました。

それから25年がたち、今では身近なところで多様な高齢者施設が誕生しています。その中でケアハウスの最たる特徴とは費用が安価な点にあります。

ケアハウスは「軽費老人ホーム」に分類され、その名の通り費用負担が軽めに設定されています。軽費老人ホームは第一種社会福祉事業であり、社会福祉法人など限定された法人のみが経営できる公益的な施設です。私たち社会福祉法人緑進会は、地域の皆様が安心して入居できる信頼ある施設づくりを目指しています。住み慣れた自宅で老後を過ごすこともよいですが、同世代の方と施設でともに老後を過ごすことも活気と安心感のある空間だと感じております。

当施設では空室がある場合には体験宿泊を受け付けておりますので、是非お気軽にご相談ください。

社会福祉法人緑進会 理事長 柴田 恒夫



〒910-4112 福井県あわら市井江段50-16 TEL:(0776)78-4700 ホームページアドレス <http://www.meron-en.or.jp/>

地域医療連携室だより

地域医療連携係長 橋本 慎平

当院では令和7年11月より地域医療連携室が新体制となりました。

新地域医療連携室の室長には院長が就任し、また、機能強化を目的として地域包括ケア部門、医療福祉連携部門の2部門を新設しました。

地域包括ケア部門は、主に高齢者や慢性疾患を抱える地域の患者さんの入退院支援を担い地域の医療・介護資源との連携を通じて、切れ目のないケアの実現を目指します。

医療福祉連携部門は、主に障害をお持ちの方々の入退院および療養中における福祉行政との調整を担い、医療と福祉の架け橋として、円滑な支援体制の構築を目指します。

さらに両部門にはそれぞれ副室長を新たに配置し、部門内外の連携を強化し、より効果的な支援体制の構築

に取り組めます。

地域医療連携室は単なる窓口ではなく、患者さんの医療体験全体を地域の医療資源とつなぎ、医療の質と継続性を支える役割があります。地域という一つの医療圏の中で、複数の医療機関が連携し合い、どこにも行き場のない患者さんをつくらないことこそが、本当に目指すべき姿だと考えています。新体制になり改めて、患者さん一人ひとりの生活背景に寄り添い、医療と地域資源をつなぐ「地域密着医療」としての当院の責務を果たし、より質の高い支援を提供すべく邁進して参ります。



外来担当医表

(令和8年1月5日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	見附 保彦	田中 周	大槻 希美	浦崎 芳正	野村 量平
	小児科	川満 徹*	川満 徹*	川満 徹*	福井大学医師*	川満 徹*
専門	リウマチ		津谷 寛		津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正*		大槻 希美 (第2・4)
	生活習慣病			桐場 千代 (第2・4)		伊藤 和広
	老年					栗田 敦 (第1・3・5)
	神経					内田 待望
	循環器		見附 保彦	見附 保彦	見附 保彦	
	整形外科	布谷 信				
	皮膚科		若原 真美*			
	眼科				吉岡 達也*	
	地域ケア		栗田 敦			
禁煙外来	見附 保彦					

- 受付時間(午前診療)8:40~11:30 ● 黄色枠は予約制 ● *印は午後診察 ● 休診日/土・日・祝日・年末年始
- ※皮膚科の診察は、火曜日の13:00~15:00(受付時間14:30まで)です。
- ※最新の医療体制についてはあわら病院ブログ「診療体制の最新情報」をご覧ください。



10月の行事食のご紹介

10月31日のハロウィンにあわせて、『かぼちゃのクリームシチュー(写真中央)』と『ハロウィンデザート(写真左上)』を行事食として提供しました。

かぼちゃは彩りだけでなく、免疫力を高めるビタミン類も豊富で、寒くなる季節にピッタリの食材です。少しずつ冬へ季節が進む中、心も体も温まる献立になるよう工夫しました。



重症心身障害児(者)病棟開設50周年記念式典

当院の重心病棟は、1975年(昭和50年)に開設され今年4月で50周年を迎え、10月7日(火)に行政関係者、患者さん、ご家族を招き記念式典を開催しました。

50周年を記念してあわら病院と皆様をつなぐシンボルとしてキャラクターの制作にも取り組みました。記念キャラクターの名前は「あわす」です。どうぞよろしく申し上げます。



名前 あわす。

独立行政法人

国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北瀬238-1

TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249

〈地域医療連携室〉 FAX.0776-79-1261

URL <https://awara.hosp.go.jp/>

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(約5km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]
ハピラインふくい線「芦原温泉」駅より(約10km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]

※乗合タクシーを利用するためには事前に登録が必要です。

乗合タクシー(デマンド交通)は、お電話1本で、停留所から目的地の近くの停留所まで直接行けるシステムです。

《お問い合わせ先》あわら市役所 生活環境課 生活グループ 0776-73-8017